

# 令和4年度事業報告書

一般財団法人 日本自転車普及協会

## 目 次

I. 事業の概要	・・・ P 1
II. 事業の実施状況	・・・ P 5
1. 自転車競技の普及促進事業	・・・ P 5
(1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業	
(2) ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催・広報事業	
2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動	・・・ P 7
(1) 自転車月間推進事業	
(2) 自転車文化センター運営事業	
(3) バイコロジー推進事業	
(4) 自転車ポタリング	
(5) 自転車利用実態調査	
(6) サイクルツーリズム推進事業	
3. コロナ禍の新様式自転車競技・自転車イベントの運営体制検証調査事業	・・・ P 14
4. 自転車ADR事業	・・・ P 14
5. 自転車関連機器の普及等事業	・・・ P 15
6. 財団の運営に関する業務	・・・ P 15
III. 庶務事項	・・・ P 17
1. 会議(理事会・評議員会)	・・・ P 17
2. 監査	・・・ P 18
3. 赤坂インターシティAIR	・・・ P 18
4. 組織構成	・・・ P 18
別紙 役員名簿 評議員名簿	

## I. 事業の概要

自転車は近距離交通手段・運搬手段としての利便性・経済性が高く、通勤・通学・買い物等広く市民生活の中で利用されている。加えて、現代人の健康志向を受けてスポーツ・レクリエーションの用具としての活用も高まってきている。また近年、地球温暖化防止が世界的な緊急課題となり SDGs の理念が広く浸透してきている中、その対策の一つとして、自転車の無公害・省資源性が注目され健康増進の効用と併せて一層の自転車利用が進んでいる。

しかしながら、自転車乗用環境の整備はいまだ立ち遅れており、自転車利用者のモラルの低下などによる鉄道駅周辺や商店街地区などに見られる自転車の放置問題なども十分に改善されているとは言いがたい状況にある。また、交通ルール・マナーに関する教育も十分とは言えず、取り締まりも追いついていない中、自転車交通事故の減少は鈍く、未だに交通事故の約2割で推移している。特に、歩道上においての人と自転車の事故が目立っており、事故の補償を巡るトラブルの増加、賠償金の高額化など、深刻な社会問題となっており、当会が運営する自転車ADRセンターでも、事故当事者からの申立てを受け、弁護士3名からなる調停委員会により調停を行っている。

平成29年5月1日付で、議員立法による『自転車活用推進法』が施行され、当会が自転車月間推進協議会事務局として普及啓発してきた「5月5日は自転車の日」「5月は自転車月間」ということが、同法第14条において新たに定められた。

令和3年5月28日付で政府の『第2次自転車活用推進計画』が閣議決定・公表されたことを受けて、以降、自転車活用推進本部の働きかけを受け、令和5年3月末時点47都道府県で計画を策定済みであり、この1年間で20自治体において新たに作成され、合計231自治体が策定している。また自転車損害賠償責任保険等への加入促進についても、令和5年4月1日現在32都府県において保険加入を義務化及び10道県において努力義務化する条例が制定されている。

加えて令和4年11月1日付で自転車安全利用五則が改定されると共に、令和5年4月1日付で改正道路交通法に基づき全ての世代を対象として、自転車乗用時のヘルメット着用が努力義務化された。

自転車活用推進本部が主催する『自転車活用推進官民連携協議会』も回を重ね、自転車活用推進本部を構成する全9府省庁・自転車関係団体等全17団体の一翼を担い、本会も継続して参画している。

本会としても、自転車駐車場の整備や専用レーンの設置をはじめとする自転車の乗用環境の整備を積極的に推し進めていくとともに、道路交通法等関連法規の見直しを提案し、併せて、自転車利用者に対し交通規則遵守、マナーの向上を促す啓発活動を実践していくことが重要となっている。

本年度においても、国民が自転車を安全かつ快適に利用できる環境の早期実現を目指し、自転車利用により得られる様々な社会的効用を広めるため、競輪補助事業あるいは一般事業として、自転車安全利用の普及啓発、環境の整備促進等に関する事業を関係各方面の協力を得て計画したが、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックにより、まだまだ様々な制約を受けているものの、事態の収束に向けて薄日が差し始めており、我が国においても令和4年10月11日以降、政府による海外からの入国制限が緩和されるなど、ウクライナ情勢を巡る世界情勢の混乱が続いている中ではあるが、オンライン配信等も活用しながら、実現可能な啓発活動を実施した。

\*なお、以下で【※】の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。  
また【※2】の事業については、(公財)JKAの機械振興補助事業として実施した。

## 1. 自転車競技の普及促進事業

(1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業 【※】

(2) ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催・広報事業 【※】

自転車競技を通じて青少年の国際交流と国民体育の向上に寄与することを目的に、5月の「自転車月間」主要行事として国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車レース「三菱地所 presents ツアー・オブ・ジャパン 2022」を開催した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が継続しており、堺・京都・いなべ・美濃ステージは開催を見送ることとなったが、南信州ステージが信州飯田ステージと名称を改め、スタート・フィニッシュ地点を変更、昨年に続き、富士山・相模原・東京の全4ステージを有観客にて開催した。

また、コロナ禍における日本政府による水際対策も継続していたため、海外チームの招聘を見送ることとなり、国内UCIコンチネンタルチームと日本人選手を揃えるアメリカ籍のチームのみ出場とした。さらに、出場チーム数の維持のため、国内クラブチームの招待が可能となるようUCIに特別措置を依頼し、レースクラスを2.1から2.2クラスに変更して開催した。

## 2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

(1) 自転車月間推進事業 【※】

「自転車月間(自転車の日/5月5日)」の趣旨を広く一般に周知するため、自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2022」を聖徳記念絵画館前通り(新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路において、感染症拡大防止策を講じて実施した。

また、2023年度5月の自転車月間事業に向けて、自転車月間推進協議会総会を開催した。

(2) 自転車文化センター運営事業 【※】

自転車利用方法に関する正しい認識と理解を深めるとともに、国内における自転車文化を醸成するため、本会が運営する自転車に関する総合情報提供施設「自転車文化センター」を中心に、次の事業を行った。

① 自転車に関する総合情報提供事業

自転車に対する市民及びメディアの関心は高く、各種自転車情報収集のニーズに対応するため、国内外の自転車関連資料及び情報の調査・収集を行った。

収集した資料・情報は、データベース等で管理し、研究成果と併せて、展示やスタッフの対応を通して来館者に提供した他、現物及びデータ資料等をメディアや自治体が主催するイベント等に貸し出しを行った。

また、当センターのホームページ、Facebook等SNSを活用し成果を広報した。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、開館時間の短縮を行いながら、来館者に対し情報提供を実施した。

② 自転車に関する企画催事の実施 【※】

乗り手の体格・用途に合わせて自転車をオーダーメイドで作る、高い技術を持ったハンドメイドビルダーが製作した自転車や各種パーツ、また高齢者・障がい者向けの特種な自転車を一堂に会して紹介する「2023 ハンドメイドバイシクル展」について、新型コロナウイルス感染症第8波の流行期間中であつたが、感染症拡大防止対策を行った上で、会場で開催した。

③ 自転車に関するテーマ展示 【※】

自転車に関わる社会文化の歴史や自転車競技等について、当センター所蔵資料を中心に、最新の情報を加えた紹介・展示を実施。自転車に対する興味・関心を深めてもらうとともに、自転車の魅力や新たな活用方法等を発信するため、テーマを変えた展示を計3回開催した。

④ 自転車教室(楽しさと安全利用)

地方自治体等からの依頼を受けて、当センター学芸員、自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、主に小学生や高齢者を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターを活用した実技体験や反応速度の測定ができる機器を活用した体験コーナーなどを盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室・サイクリング講習会を計7回開催した。

また、夏休み期間中に「自転車乗り方教室(幼児から小学校低学年向け)」を開催した。

⑤ 自転車常設企画展示

年間を通じて、多数の来場者がある千代田区の科学技術館(展示室名:自転車広場【※】)及び伊豆の日本サイクルスポーツセンター・ベロドロームにおいて、当センターの施設紹介と歴史的自転車の展示による広報活動を行った。

⑥ 自転車利用環境調査

一般の方の自転車への興味を喚起、また、自転車愛好者への街中での安全利用の訴求を目的として、自転車文化センターオリジナルのサイクリング推奨ブック(3年計画の3年目)を作成し、当センター友の会会員やサイクリング講座などの講習会にて配布・活用した。

(3) バイコロジー推進事業 【※】

自転車の有効利用を奨励し、安全かつ快適に利用できる環境の実現を目指すバイコロジー運動を全国の地方組織と共に実施を計画した。

駅前などの街頭においては、自転車乗用環境の啓発に関する事業として、自転車利用者のルール遵守とマナー向上を図るキャンペーン等や、バイコロジー運動のリーダーを育成し、自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、バイコロジー指導者養成セミナーを3年ぶりに会場でリアル開催すると共に、ライブストリーミング配信も実施した。

(4) 自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として企画した。

本年度は、後半からコロナ禍の影響が少しずつ緩和されてきたことを踏まえ、約4年ぶりにポタリングを開催し、自転車による歴史散策の楽しみと自転車交通安全ルール・安全な走り方の啓発を実地で行った。

(5) 自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査を、年間を通して行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査体制を維持することが難しい状況となり本年度は実施を見送った。

(6) サイクルツーリズム推進事業

地方自治体等からの要請を受けて、自転車による地域活性化のためのコンサルティング・イベント実施等の相談を受けた。

### 3. コロナ禍の新様式自転車競技・自転車イベントの運営体制検証調査事業【※2】

コロナ禍における新様式の自転車競技・自転車イベントの運営体制検証調査研究事業として、2021年度に構築した運営体制をブラッシュアップし、本会3事業①自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ2022」、②「三菱地所 presents ツアー・オブ・ジャパン2022」、③「2023 ハンドメイドバイシクル展」において適用し、実施した。

3事業共に有観客にて実施するため、開催事前より運営や執務に参加するスタッフの健康観察を行い、検査体制を確保し、各事業に感染症対策のガイドラインを策定し、遵守した。

開催当日は、各会場共に検温所及び手指消毒液を設置し、来場者は必ず検温を行ってから入場する動線とし、感染症拡大リスクを最低限に抑える会場レイアウトを作成して開催した。

また、3事業開催後に実施した感染症対策のどのような対策が有効であり、他にブラッシュアップの必要があるかなどの検証を行った。

### 4. 自転車ADR事業 注) ADR…裁判外の法的紛争解決手続きの総称

自転車関係団体の協力の下、法務省の認証を得た自転車ADRセンターにおいて、自転車に関する交通事故を専門に扱うADRの業務を、年間を通して行った。

### 5. 自転車関連機器の普及等事業

自転車競技運営に欠かせない映像機器、投票業務用機器等のリースを希望施行者に対して実施した。

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリーの販売も行った。

### 6. 財団の運営に関する業務

令和4年5月及び令和5年3月に通常理事会、令和4年6月に臨時理事会を開催し、令和4年6月に定時評議員会を開催した。また、評議員会終了後、令和3年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に提出した。

「自転車総合ビル」については、引き続き、管理運営・保守業務を行った。また、「赤坂インターシティAIR」については、引き続き、同ビルの管理運営・保守業務を赤坂インターシティマネジメント㈱に委託し、安定的な不動産賃貸収益を確保した。

## II. 事業の実施状況

### 1. 自転車競技の普及促進事業

(1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業

(2) ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催・広報事業

国内における自転車スポーツの振興を図ることを目的に、UCI(国際自転車競技連合)公認のステージレース「三菱地所 presents ツアー・オブ・ジャパン 2022」を開催した。

本大会は、2017年に施行された自転車活用推進法で謳われている、5月の「自転車月間」のメイン・イベントの大会である。

今年度は、2019年末から続くコロナ禍の影響により、8ステージ中4ステージ(堺、京都、いなべ、美濃)の開催を見送り、4日間4ステージに縮小となった。また、我が国の水際対策により海外チーム招聘が昨年に続き困難となったことから、UCIより特別許可を受け、レースクラスを2.1から2.2に変更し、国内チーム(UCIコンチネンタルチーム、日本ナショナルチーム、クラブチーム、大学チーム)を中心とした出場チームにて、大会事前及び開催当日の会場において、十分な感染症対策を講じた上で、全ステージで有観客の開催となった。

#### ① スケジュール・コース・距離：総走行距離：418.1km

5月19日(木) 1st 信州飯田ステージ 10:00 スタート 天候 晴れ

下久堅小学校グラウンド前→下久堅周回コース→下久堅小学校グラウンド前  
<パレード 3.0 km> 9.5 km + 12.2 km × 9 周 + 0.3 km = 119.6 km

5月20日(金) 2nd 富士山 ステージ 10:30 スタート 天候 曇り

富士スピードウェイ西ゲート→東京五輪タイムトライアル周回コース→  
小山町須走支所→ふじあざみライン  
13.0 km × 4 周 + 9.4 km + 17.4 km = 78.8 km

5月21日(土) 3rd 相模原 ステージ 8:50 スタート 天候 雨

橋本公園→旧小倉橋→串川橋→鳥居原ふれあいの館前周回コース  
<パレード 4.6 km 11.1 km + 13.8 km × 7 周 = 107.7 km>

5月22日(日) 4th 東京ステージ 11:00 スタート 天候 晴れ

東京都:品川区大井埠頭周回コース  
<パレード 3.8 km> 7.0 km × 16 周 = 112.0 km

#### ② 出場チーム：全16チーム

○UCIコンチネンタルチーム：

宇都宮ブリッツェン/EFエデュケーション・NIPPOデヴェロップメントチーム (USA) /  
キナンサイクリングチーム/愛三工業レーシングチーム/マトリックス パワータグ/  
チーム ブリヂストン サイクリング/チーム右京/那須ブラーゼン/シマノレーシング  
/ヴィクトワール広島

○ナショナルチーム：日本ナショナルチーム

○クラブチーム：弱虫ペダルサイクリングチーム/スパークルおおいだ/  
チームユーラシア・IRCタイヤ

○大学チーム：日本大学/京都産業大学

③ 成績：

■総合成績

個人総合時間賞	ネイサン・アール	チーム右京
個人総合ポイント賞	レオネル・キンテロ・アルテアガ	マトリックスパワータグ
個人総合山岳賞	小林 海	マトリックスパワータグ
新人賞	宮崎 秦史	宇都宮ブリッツェン
団体総合時間賞	チーム右京	

■ステージ優勝

信州飯田ステージ	ネイサン・アール	チーム右京
富士山ステージ	ベンジャミン・ダイボール	チーム右京
相模原ステージ	岡 篤志	EF EDUCATION-NIPPO DEVELOPMENT TEAM
東京ステージ	レイモンド・クレダー	チーム右京

④ YouTube ライブストーリーミング視聴者数：

ステージ	ライブ配信視聴者数 (最大同時接続数)	視聴回数 (7/31時点)
信州飯田ステージ	4,257 人	54,299 回
富士山ステージ	4,525 人	39,819 回
相模原ステージ	6,028 人	53,449 回
東京ステージ	5,578 人	49,025 回
計	20,388 人	196,592 回

⑤ 広報：以下のとおり、パブリシティ活動を実施した。

- ア. 大会の告知と取材誘致及び自転車月間の趣旨の周知を図るため、プレスリリースを作成し、マスコミ各社に送付した結果、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・WEBにて多数取り上げられた。(全 225 件)
- イ. 大会告知及び大会コロナ対策等の周知を図るため、2022 年 4 月 15 日(金)15:00~15:30「三菱地所 presents ツアー・オブ・ジャパン 2022 公式記者発表会」を自転車総合ビル 601 号会議室から YouTube にて配信を実施した。さらに、大会前日の 5 月 18 日(水)17:00 より YouTube 配信にて、注目選手 4 名と信州飯田ステージ・アンバサダーの福島晋一氏を迎え、開催前日記者会見を行った。
- ウ. 大会告知ポスターを作成し、4~5 月にかけて全国の関係団体等に配布・掲出したほか、公式プログラムを作成・配布した。また、ホームページ・Facebook も作成し情報の発信を行った。
- エ. ツアー・オブ・ジャパン全ステージにて、ファンサービスの一環として YouTube「三菱地所 JCL プロロードレースツアー公式チャンネル」にてレースライブ配信を行った。
- オ. 大会の周知浸透を図るため、Web 動画配信を活用した広報活動を展開した。

放送日	番組名	配信時間	配信媒体
5/19(木)	Tour of Japan 信州飯田ステージ	9:30~	YouTube
5/20(金)	〃 富士山ステージ	10:00~	〃
5/21(土)	〃 相模原ステージ	8:20~	〃
5/22(日)	〃 東京ステージ	10:30~	〃



※また、ツアー・オブ・ジャパンに併せて次の大会を開催した。

「第24回 全日本学生選手権クリテリウム大会」

期間：令和4年5月22日(日) 9:15~10:30

コース：東京都品川区 大井埠頭周回コース(ツアー・オブ・ジャパン東京ステージと同コース)

参加者：合計92名

## 2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

### (1) 自転車月間推進事業

「自転車月間」は、昭和56年5月に「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律」が施行されたことを機に、自転車の持つ社会的責任を自覚しつつ、改めて自転車の可能性とそれを取り巻く諸問題の解決策などについて検討する機会として設定された。

#### ① 自転車月間推進協議会の開催

昭和56年度に関係省庁の後援を得て、自転車関係団体及び自転車月間の趣旨に賛同した公益法人等39団体(令和4年度においては30団体)によって「自転車月間推進協議会」が設置された。

「自転車月間」の趣旨に沿った事業を重点的に実施することを目的として、事業報告・決算の承認を行った。

ア. 令和4年度第1回自転車月間推進協議会総会

日時：令和4年7月26日(火) ※書面表決で実施

内容：令和4年度自転車月間事業報告、決算報告

イ. 令和4年度第2回自転車月間推進協議会総会

日時：令和5年3月17日(金) ※3年ぶりに対面式でリアル開催

内容：令和5年度自転車月間事業の実施計画・予算報告

#### ② 「自転車の日」記念事業

「自転車月間(自転車の日/5月5日)」及び月間趣旨のより一層の普及啓発を図るため、自転車月間「自転車の日」記念行事を開催した。※コロナ禍により令和2年度は開催中止・令和3年度はオンライン配信のみの開催であったところ、令和4年度は3年ぶりにリアル開催を実現。

ア. 開催月日：令和4年5月5日(木・祝)10:00~16:00

イ. 開催場所：明治神宮外苑聖徳記念絵画館前通り及び神宮外苑サイクリング道路

ウ. 実施内容：

《ステージイベント》

i. 自転車メンテナンス講座 <協力:なるしまフレンド>

ii. ピーポ君の自転車交通安全教室 <協力:警視庁交通総務課>

iii. 我らワールドトークショー

<協力:サッシャ氏、栗村修ツアー・オブ・ジャパン大会ディレクター>

iv. 輪行実演ステージ <協力:アズマ産業株式会社>

v. BMX パフォーマンスショー

<出演:一般社団法人 全日本フリースタイル BMX 連盟>

《体験イベント》

i. 自転車体験試乗コーナー

<メリダジャパン(株)、マヴィックジャパン(株)、プロショップタカムラ製作所、ヨネックス(株)、(株)WBS、ミズタニ自転車(株)、(株)近藤機械製作所、(株)サイクルスポット、(株)東商会、平和技術研究所、5Links Co.Ltd、SPECIALIZED>

- ii. おもしろ自転車試乗会<協力:(一財)日本サイクルスポーツセンター>
- iii. 子供試乗コーナー2か所  
  - <協力:(株)サイクルスポット、(株)東商会、ヨツバサイクル>
- iv. 自転車交通安全教室/白バイ・パトカーと記念撮影<協力:警視庁四谷警察署>
- v. AR体験コーナー<協力:テックプラパーク powered by BBmedia>
- vi. 俊敏性テスト
- vii. 発電自転車体験
- viii. 自転車交通安全シミュレーター体験<協力:東京都>
- ix. 「自転車月間」・「バイコロジー」・「ツアー・オブ・ジャパン」PRコーナー
- x. ブース出展  
  - <自転車活用推進本部、東京都、警視庁交通総務課、警視庁四谷警察署、(公財)JKA、(一社)グッド・チャリズム宣言プロジェクト、バイシクルタウン青山、(株)和光ケミカル>
- xi. パネル展示  
  - <自転車月間とは・バイコロジーってなに?・自転車はルールを守って楽しく乗りましょう・自転車は健康にどのようにいいのか?・自転車は愛すべき乗り物です>

エ. 入場者数: 1,312人

オ. 広 報:

チラシ(5,000部)を作成し、4~5月にかけて、自転車関係団体や出展社メーカーなどに送付し、一般に配布を依頼した。

自転車専門誌(サイクルスポーツ 6月号)への広告を掲載した。また本会ホームページ上での開催告知及び自転車愛好者のアクセス数が高いインターネットサイト(Cyclist等)や新聞、テレビなどへのプレスリリース配信等の広報を行った他、Facebookを活用し一般向けに告知を行うなど来場者の招致につなげた。

さらに今年はアクセス数が高く、自転車に精通しているインスタグラマー4名(愛あむさん、mizuさん、Yukariさん、後輩ちゃん)にご自身のチャンネルでのイベント告知を依頼、開催当日に来場していただき、その報告もアップしていただいた。その告知により彼女たちに会いに来るファンの方が多数集まり、来場促進につなげることが出来た。また、当イベントについて投稿していただいたことで、インスタグラマーのフォロワー数も短い期間で何千人と増え、双方にとって大きなメリットがあった。

○フォロワー数 (愛あむさん 2.1万人・mizuさん 3.3万人・Yukariさん 1.7万人・後輩ちゃん 1.3万人) ※3月1日時点

○フォロワー数 (愛あむさん 2.4万人・mizuさん 3.6万人・Yukariさん 1.9万人・後輩ちゃん 1.8万人) ※5月30日時点

当日は、各ステージイベントを撮影し、YouTubeにてLIVE配信し、来場できない方にも観ていただけるように工夫した。

○YouTube 合計視聴回数合計: 1,647回再生 (6/20現在)

○YouTube 合計インプレッション数合計: 37,106回 (6/20現在)

○YouTube ユニーク視聴者数合計: 1047人(6/20現在)

今年はイベント内を撮影し、動画の制作を実施した。試乗会やステージ・一般の方や出展社のインタビューを盛り込んだイベントを全体的に紹介する内容となっており、次年度に向けたイベント告知、報告を兼ねた動画として、YouTubeにて配信し、一般の来場促進につなげる。

カ. 感染対策：下記の新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を行い、3年ぶりに有観客でリアル開催を実現した。

- i. 開催関係者・執務員は前日までに抗原検査を実施。
- ii. 当日来場者は検温・消毒テントを通過して入場していただいた。
- iii. 各ブース・テントには消毒液を配置。共有物はこまめに消毒した。
- iv. 試乗の際、ヘルメットキャップを配布した。

○イベント開催における環境に配慮した取り組み

- ・チラシ、ホームページ等で会場案内を掲載する際、公共交通機関の利用または自転車での来場を呼びかけ自転車駐輪ラックを設置。
- ・配布物は再生紙を利用し、配布できる範囲の数量を作成。
- ・会場で発生したごみの分別廃棄。
- ・会場装飾は簡素に、再利用可能な資材を使用。

## (2) 自転車文化センター運営事業

自転車に関する正しい認識と理解を深め、自転車文化を醸成するため、本会が運営する総合情報提供施設「自転車文化センター」を拠点に、競輪からの支援による自転車イベント関連の補助事業或いは資料の収集、情報の提供および広報活動等を行った。

### ① 自転車に関する総合情報提供事業

国内外の自転車の実物・図書・映像ならびに関連資料及び情報の調査・収集を行い、収集した資料・情報は「自転車データベース」に登録して管理・保管し、来館者やマスコミ等に対して情報提供を行った。

【令和4年4月～令和5年3月の新規登録資料 662点】

平成26年4月2日より目黒・自転車総合ビルにリニューアルオープンをして9年目を迎えた自転車文化センターは、依然としてコロナ禍の影響もあり1,824人(1日平均6.1人)の来館にとどまった。来館者に対しては、問合せ・図書等資料貸出に対応すると共に、電話・FAX・e-mailによる問合せや相談・質問173件に対して、ご依頼内容を解決するための相談対応や情報提供を行った。

また、令和4年4月～令和5年3月までの自転車文化センターホームページのページビュー件数は、139,279件となった(\*平成10年の運用開始からの述ベアクセス件数は3,321,937件となっている)。

さらに、資料貸出・取材協力・監修協力・出演依頼に対する協力等の対応を行った。

【令和4年度…取材17件／協力3件／貸出一覧17件 計37件】

### ② 自転車に関する企画催事の実施

自転車の総合情報発信施設である自転車文化センターが、過去35年以上に渡って開催してきた『ハンドメイドバイシクル展』は、自転車に乗る人の体格や脚力、使用目的などに合わせ職人によって作り上げられたオーダーメイドの自転車等を展示するイベントであり、自転車スポーツ・サイクリング愛好家から好評を得ている。

今回、新型コロナウイルス感染症第8波の流行期間中であったが、感染症拡大防止対策を行った上で、昨年度に引き続き、会場にて実開催した。

名称：『2023ハンドメイドバイシクル展』

期間：令和5年1月21日(土)～1月22日(日)

場所：科学技術館1階1～5号催物場(東京都千代田区北の丸公園2-1)

来場者数：合計2,136名(21日1,041名／22日1,095名)

出展社：全 38 社

内 容：

ア. ハンドメイドビルダーによる独自の技術が施された自転車及びパーツの展示

イ. トークショー（各回定員 30 名、会場内配信、オンライン配信）

1 月 21 日（土）13:30～14:30

・「スチール以外の素材によるハンドメイドバイシクル」

ウラジミールスバラホブスキス氏（エクイリブリウムサイクルワークス）×吉本司氏

1 月 21 日（土）15:30～16:30

・「新時代のハンドメイドバイシクル」

服部晋也氏（Shin・服部製作所）×吉本司氏

1 月 22 日（日）11:00～12:00

・「自転車のこと」

千葉洋三氏（アマンダスポーツ&ミニラボ アマンダ）×小島裕樹氏

1 月 22 日（日）14:00～15:00

・「ハンドメイドバイシクル工房の事業継承」

齋場孝由氏・出口旭氏（ドバツツ ライノハウス）×吉本司氏

ファシリテーター 吉本司氏（ジャーナリスト、元サイクルスポーツ編集長）

小島裕樹氏（サイクリングが主宰/ジャパンハンドメイドバイシクルズ コーディネーター）

ウ. 主催者特別展示コーナー

「旅と自転車」をテーマにキャンピング車などの展示を行った。

### ③ 自転車に関するテーマ展示

自転車文化センターギャラリー・ライブラリー・ショーウインドウにて、企画したテーマ毎に所蔵資料を活用し、紹介するテーマ展示を開催した。自転車への親しみを深めてもらうとともに、自転車の新たな魅力・利用方法等について周知した。

ア. 名 称 : 第 1 回テーマ展示「自転車月間展」

期 間 : 2022 年 4 月 27 日(水)～7 月 24 日(日)

内 容 : 「5 月は自転車月間」をスローガンに、当会が主催しているイベント「サイクルドリームフェスタ」並びにサイクルロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」を紹介し、多様な“自転車”の姿、スポーツとしての魅力を周知し、通勤、通学、買い物等日常使いの自転車とはまた違った自転車の楽しみ方を国で推奨している各地のサイクリングルートを紹介しながら、気持ち良いサイクリングのピーアールも行った。

入場者数 : 434 名

イ. 名 称 : 第 2 回テーマ展示「自転車ふしぎ展」～走る・曲がる・止まる～の科学

期 間 : 2022 年 7 月 27 日(水)～12 月 11 日(日)

内 容 : 自転車の“ふしぎ”について所蔵資料の中で自転車の仕組みが解る現物を活用し、来館者に実際に触ってもらえるよう展示を行い、“自転車”への興味、親しみを深めてもらった。また、この期間中イベントの一環として「夏休み自転車質問コーナー」を開催。HP 等で希望日時を受付し、その時間は学芸員が自転車の構造や仕組みなどマンツーマンで対応した。

入場者数 : 793 名

ウ. 名 称 : 第 3 回テーマ展示「THE KEIRIN 展」

期 間 : 2022 年 12 月 14 日(水)～2023 年 3 月 31 日(金) ※4 月 23 日(日)まで開催。

内 容 : 多くの自転車利用者にとっては、通勤・通学・買い物といった日常生活利用を中心とした軽快自転車が主流ですが、世界には面白い自転車や高度な技術を持ったアスリートが乗る競技用自転車など、普段目にする事のない自転車が多数あります。今回は、日本が生んだ世界のスポーツ“競輪”を歴史年表も交え競輪場のバンクの傾斜をイメージした模型を作製し、バンク走行する選手の凄さを伝える展示を行った。また、現役競輪選手（ガールズも含め）の自転車を路面スペース（ギャラリー）に展示し、図書のある部屋（ライブラリー）では、全国の各競輪場のイメージキャラクター（マスコット）と併せ、ご当地情報と共に展示、紹介を行った。

入場者数 : 453名（3月31日現在）

#### ④ 自転車教室（楽しさと安全利用）

地方自治体等からの講習依頼に対して、当センター学芸員や自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、小学生や高齢者等を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターなどによる実技体験や反応速度の測定が出来る機器を活用した体験コーナーなどを盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室・サイクリング講習会などを開催した。

【令和4年度…講演、講習会 計7件】

また、自転車の楽しみや魅力を伝えることを目指した各種自転車教室について、今年度においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行った上で、夏休み期間中に「自転車乗り方教室（幼児から小学校低学年向け）」を開催し計11名の参加があった。

#### ⑤ 自転車常設企画展示

年間約50万人（コロナ禍前）が来館する「科学技術館」（千代田区北の丸公園内）2階に、歴史的自転車実物等の展示室『自転車広場』を出展した。

□展示場所：科学技術館2階F室（東京都千代田区北の丸公園2-1）

□期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日

また、年間約10万人（コロナ禍前）が来園する自転車のテーマパーク「日本サイクルスポーツセンター」（静岡県伊豆市）・ベロドロームにおいて、多数の来場者に対して自転車の歴史と利用促進を普及啓発する常設企画展示を行った。

#### ⑥ 自転車利用環境調査

自転車文化センターでは、サイクリング及びサイクルツーリズムの高まりから、さらに自転車に注目が集まっている中、当センター来館者を含めた一般の方の自転車への興味を喚起、また、自転車愛好者への街中での安全利用の訴求を目的として、自転車文化センターオリジナルのサイクリング推奨ブック「BCCサイクリング推奨ブック③～始めよう自転車ライフ～」(3ヶ年計画の3年目)を作成し、当センター友の会会員やサイクリング講座などの講習会にて配布・活用した。

### (3) バイコロジー推進事業

#### ① バイコロジー地方組織開催事業

現在、地球温暖化防止を目指したSDGsが世界的な緊急課題となっており、自転車の持つ可能性に大きな期待が高まっている。また、自転車乗用環境整備の立ち遅れ、自転車利用者モラルの低下などによる、放置自転車問題、交通事故の増加等が社会問題として派生しており、その解決を図ることが喫緊の課題である。こうした状況を改善していくための方策の一つとして、全国的な規模でバイコロジー運動を実施している。

バイコロジーとは「自転車安全かつ快適に利用できる自然豊かで人間味あふれる社会の構築を目指す」を理念としており、その推進のため統一キャンペーン事業や各地域の組織が創意工夫した事業の展開を目指したが、コロナ禍により対面接触型の啓発活動は縮小した。

#### ア. バイコロジーをすすめる会総会

日時：令和5年3月17日(金) ※3年ぶりに対面式でリアル開催

議題：・令和5年度バイコロジー運動方針について

・令和5年度バイコロジー統一事業の概要について

#### イ. バイコロジー地域活動

令和4年度バイコロジー運動方針に基づき、バイコロジー地方組織の統一活動として交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動を春と秋の全国交通安全運動の期間及び5月の自転車月間期間中に実施し、全国的な普及啓発を企画した。

また全国のバイコロジー地方組織が行う独自の事業として、自転車乗用環境の整備促進、放置自転車の一掃、自転車交通事故の解消、自転車による健康づくり等をテーマにした各種事業が実施された。(参考：高齢者への自転車交通安全教室など自転車交通安全関係事業、視覚障がい者向けのタンデム自転車走行会など自転車による健康づくり等事業ほか)令和4年度後半からは、コロナ禍の影響が少しずつ緩和されてきたことを踏まえ、各地方組織が実施可能な範囲で事業を行った。

#### ② 自転車セミナー開催

乗用時にCO<sub>2</sub>を排出せず、環境に優しい乗り物である自転車利用を促進し、自転車の素晴らしさを広く普及啓発するために、自転車を取り巻く様々な問題を一般の方々と共に考え「自転車市民権」の確立を目指す場として、参加者のニーズに応えるため、その時々タイムリーなテーマを設定し、各界の第一線で活躍されている学識経験者や有識者を招聘し講演いただくことで、自転車の新たな情報の発信の場としての役割を創出することができた。

なお本年度は、会場における有観客開催とYouTube配信を併用して実施、計5回開催した。

#### ア. 第1回自転車セミナー<2022年9月14日(水)19:00~20:30>

講師：大野哲郎氏 (rinne イラストレーター)

テーマ：「自転車×アートの融合が伝えるメッセージ」

参加者数：会場15名※配信なし

#### イ. 第2回自転車セミナー<2022年10月11日(火)18:30~20:00>

講師：本田竜介氏(救急救命士/イナーメ信濃山形所属)

本田母映氏(医師/High Ambition 女子サイクリングアカデミー所属)

テーマ：「サイクリストのためのファーストエイド」

参加者数：会場34名/オンライン視聴29名

#### ウ. 第3回自転車セミナー<2022年10月24日(月)18:00~19:30>

講師：別府史之氏(元プロロードレース選手/サイクルリングプロモーター)

テーマ：「現役時代の経験とこれからの若手育成について」

参加者数：会場49名/オンライン視聴15名

#### エ. 第4回自転車セミナー<2022年11月24日(木)18:30~20:30>

講師：疋田智氏(自転車ツーキニスト/

TBS ラジオ「ミラクル・サイクル・ライフ」パーソナリティ)

テーマ：「世界中で大激変！自転車環境の明日はどっちだ」

参加者数：会場 25 名／オンライン視聴 6 名

オ. 第 5 回自転車セミナー＜2023 年 2 月 2 日(木)18:00～20:00＞

講 師：堂城 賢氏（自転車ティーチングプロ）

テーマ：「なぜ自転車に乗らなければならないのか」

参加者数：会場 34 名／オンライン視聴 15 名

③ バイコロジー地域リーダー養成セミナー＜2022 年 11 月 9 日(水)13:30～15:00＞

地方におけるバイコロジー運動のリーダーを育成し自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、バイコロジー指導者養成セミナーを開催した。

講 師：金籠 史彦氏（国土交通省道路局参事官／自転車活用推進本部事務局次長）

テーマ：「最近の自転車関連施策について～第 2 次自転車活用推進計画の策定～」

参加者数：バイコロジー13 組織 15 名、一般来場者 32 名、オンライン参加者 13 名、合計 60 名

#### (4) 自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として、企画した。

本年度は、後半からコロナ禍の影響が少しずつ緩和されてきたことを踏まえ、約 4 年ぶりにポタリングを開催し、自転車による歴史散策の楽しみと自転車交通安全ルール・安全な走り方の啓発を实地で行った。

□開催日時： 2022 年 12 月 3 日(土)10:30～15:30

□コース： 自転車総合ビル出発～ねむの木庭(旧正田邸跡)～高輪築堤の石垣石～泉岳寺～高輪大木戸跡～高輪人道トンネル(行灯殺しのトンネル)～旧東海道～品川橋～浜川砲台と龍馬像～鈴ヶ森刑場跡～大森貝塚公園～神明天祖神社～文庫の森公園～目黒不動尊龍泉寺～自転車総合ビル到着／全行程約 25km

□参加人数： 一般参加者 7 名／本会役職員先導・最後尾等同行者 7 名

#### (5) 自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査である「自転車走行状況の定点調査」を、自転車総合ビル前(全日／午前午後各 1 回)にて行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により調査体制を維持することが難しい状況となり本年度は実施を見送った。

#### (6) サイクルツーリズム推進事業

自転車を活用した地域活性化を図るため、本会では自転車を活用した観光地域づくりを推進している地方自治体などの要請を受け、サイクリングの環境整備を行うための活動を行った。

本年度は、2023 年 10 月開催を正式決定した「ツール・ド・九州」について、大会開催に向けての各種協力を行った。

### 3. コロナ禍の新様式自転車競技・自転車イベントの運営体制検証調査事業【※2】

コロナ禍における新様式の自転車競技・自転車イベントの運営体制検証調査研究事業として、①自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2022」、②「三菱地所 presents ツアー・オブ・ジャパン 2022」、③「2023 ハンドメイドバイシクル展」の3事業において、昨年度構築した感染拡大防止に努めた運営体制の有用性の検証を行った。

いずれの事業においても、執務者や参加者に対し、イベント開催事前の健康観察報告及び抗原検査陰性確認を必須とした。

各会場は、感染症対策専門内科医師による監修を受けたゾーニングや動線計画を作成し、来場者は必ず入場口となる検温所を通過する動線を確保、検温所内には看護師・救急救命士等の専門家を含めた検温スタッフを配置した。また、会場内においては、注意喚起看板を設置の上、マスク着用の必須と手指消毒を呼び掛け、会場内の来場者向けテーブル・椅子等は感染症対策チームが適宜消毒を行うことで、全ての参加者が安心・安全にイベントを楽しめる環境づくりを行った。

以上の対策により、3事業共に感染症疑義者・罹患者を発生させることなく、無事終了したことから、構築した運営体制の有用性を改めて確認することができた。

さらに、それらの実施結果を報告書として取りまとめ、実施方法等のノウハウを国内UCIレース主催者等に情報提供を行い、国内自転車スポーツ大会・関連イベントの再開に向けた参考としていただけた。

### 4. 自転車ADR事業

本年度受付数9件、調停日数21回、和解成立数7件。

また、自転車ADRセンター会議を開催した。

#### (1) 令和4年度第1回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時： 令和4年6月3日(金) 午後2時～
- ・議題： ア.令和3年度事業報告・決算報告について  
イ.自転車ADRセンター事業状況報告について  
ウ.その他

#### (2) 令和4年度第2回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時： 令和4年9月6日(火) 午後2時～
- ・議題： ア.自転車ADRセンター事業状況報告について  
イ.その他

#### (3) 令和4年度第3回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時： 令和4年12月6日(火) 午後2時～
- ・議題： ア.自転車ADRセンター事業状況報告について  
イ.その他

#### (4) 令和4年度第4回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時： 令和5年3月7日(火) 午後2時～
- ・議題： ア.令和5年度事業計画について  
イ.令和5年度収支予算について  
ウ.自転車ADRセンターの事業状況報告について  
エ.その他



## 5. 自転車関連機器の普及等事業

投票業務用機器等の新機器導入のため、茨城県と新規にリース契約を下表のとおり締結した。

No.	リース先	契約日	リース物件・機器代金	リース期間
1	取手競輪場 (茨城県)	リース R5. 1. 10 工事 R5. 1. 22	映像配信装置 4,840,000 円(税込)	5 年 R5. 2～ R10. 1
2	取手競輪場 (茨城県)	リース R5. 2. 7 工事 R5. 2. 23	競輪情報サービス装置 9,900,000 円(税込)	5 年 R5. 3～ R10. 2
合 計			2 カ所 4 契約	

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリーの販売も行った。

## 6. 財団の運営に関する業務

※理事会、評議員会等の詳細内容については、「Ⅲ. 庶務事項(P. 17～)」を参照。

令和4年6月20日、令和3年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に、電子申請により提出した。

「自転車総合ビル(目黒)」関係では、引き続き、ビルのオーナーとして、管理運営・保守業務を行った。

また、「赤坂インターシティAIR」関係では、引き続き、同ビルの管理運営・保守業務を赤坂インターシティマネジメント㈱に委託し、安定的な不動産賃貸収益を確保した。

\*以下の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。

1. 自転車競技の普及促進事業
  - (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業
  - (2) ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ開催・広報事業
2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動
  - (1) 自転車月間推進事業
  - (2) 自転車文化センター運営事業
    - ・ 自転車に関する企画催事の実施
    - ・ 自転車に関するテーマ展示
    - ・ 自転車常設企画展示(科学技術館内自転車広場)
  - (3) バイコロジー推進事業

\*以下の事業については、(公財)JKAの機械振興補助事業として実施した。

3. コロナ禍の新様式自転車競技・自転車イベントの運営体制検証調査事業

報告書等印刷物一覧(令和4年4月～令和5年3月作成分)

	印刷物	総部数
1.	ツアー・オブ・ジャパン 2022 ポスター(B2)	1,400
2.	ツアー・オブ・ジャパン 2022 チラシ(A4)	11,200
3.	ツアー・オブ・ジャパン 2022 プログラム	4,400
4.	ツアー・オブ・ジャパン 2022 テクニカルガイド	350
5.	ツアー・オブ・ジャパン 2022 報告書	1,300
6.	ツアー・オブ・ジャパン 2022 オフィシャルマニユアル	300
7.	自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2022」 チラシ	5,000
8.	自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ 2022」 報告書	400
9.	自転車安全利用促進キャンペーンパンフレット	32,500
10.	ハンドメイド展チラシ (A4)	2,000
11.	ハンドメイド展ポスター (A2)	60
12.	BCC サイクリングコース推奨ブック③～始めよう自転車ライフ	300

### Ⅲ. 庶務事項

#### 1. 会議

##### (1) 理事会

###### ①第 32 回理事会 (令和 4 年度第 1 回)

ア. 日時 令和 4 年 5 月 26 日(木) 14:00～

イ. 場所 自転車総合ビル 6 階 601 会議室

ウ. 決議事項

第 1 号議案 令和 3 年度事業報告の承認の件(決議)

第 2 号議案 令和 3 年度決算報告の承認の件(決議)

第 3 号議案 令和 3 年度公益目的支出計画実施報告の承認の件(決議)

第 4 号議案 定時評議員会の招集の決定についての承認の件(決議)

第 5 号議案 令和 4 年度競輪補助事業の実施に関する承認の件(決議)

第 6 号議案 職務の執行状況の報告(報告)

###### ②第 33 回臨時理事会 (令和 4 年度第 2 回)

ア. 日時 令和 4 年 6 月 16 日(木) 11:00～

イ. 決議事項

第 1 号議案 代表理事(非常勤会長)の選定に関する承認の件(決議)

第 2 号議案 非常勤役員報酬に関する承認の件(決議)

第 3 号議案 業務執行理事の選定に関する承認の件(決議)

第 4 号議案 常勤理事報酬に関する承認の件(決議)

第 5 号議案 非常勤顧問の選任に関する承認の件(決議)

###### ③第 34 回理事会 (令和 4 年度第 3 回)

ア. 日時 令和 5 年 3 月 23 日(木) 14:00～

イ. 場所 自転車総合ビル 6 階 601 会議室

ウ. 決議事項

第 1 号議案 令和 5 年度事業計画の承認の件(決議)

第 2 号議案 令和 5 年度収支予算の承認の件(決議)

第 3 号議案 人事取扱規則に関する規程の一部改正についての承認の件(決議)

第 4 号議案 職員給与に関する規程の一部改正についての承認の件(決議)

第 5 号議案 常勤参与の選任に関する承認の件(決議)

第 6 号議案 事務局長の選任に関する承認の件(決議)

第 7 号議案 職務の執行状況の報告(報告)

##### (2) 評議員会

###### ①第 11 回(令和 4 年度)定時評議員会

ア. 日時 令和 4 年 6 月 15 日(水) 14:00～

イ. 決議事項

第 1 号議案 令和 3 年度(一財)日本自転車普及協会事業報告の件(報告)

第 2 号議案 令和 3 年度(一財)日本自転車普及協会決算報告の承認の件(決議)

第 3 号議案 令和 3 年度公益目的支出計画実施報告の件(報告)

第 4 号議案 理事・監事の選任に関する承認の件(決議)

第 5 号議案 令和 4 年度(一財)日本自転車普及協会事業計画及び収支予算の件(報告)

## 2. 監査

### (1) 監事監査

令和4年5月13日(金) 令和3年度決算監査

令和4年10月28日(金) 令和4年度上期業務監査

### (2) 監査法人(清泉監査法人)による財務監査

令和4年5月6日(金) 期末監査

令和4年12月19日(月)～20日(火) 期中監査

## 3. 赤坂インターシティ AIR

### (1) 赤坂インターシティ AIR 共有者集会

ア. 日時 令和4年6月22日(水) 17:00～

イ. 場所 赤坂インターシティコンファレンス 301 会議室

ウ. 議題

第1号議案 2022年度赤坂インターシティ AIR 管理組合通常全体総会における議決権行使について

報告事項1 2021年度管理運営実績報告について

報告事項2 2022年度管理運営計画について

報告事項3 赤坂1丁目地区市街地再開発組合から承継した事業費の実績報告

報告事項4 赤坂インターシティ AIR の火災について

報告事項5 中長期営繕計画の策定について

### (2) 赤坂インターシティ AIR 臨時共有者集会

ア. 日時 令和4年7月28日(木) 17:00～

イ. 場所 赤坂インターシティコンファレンス 301 会議室

ウ. 議題

第1号議案 2022年度第1回赤坂インターシティ AIR 管理組合臨時全体総会における議決権行使について

報告事項1 業務商業部分に係る損害保険契約更新の件

## 4. 組織構成

### (1) 役員

役員(会長<非常勤>、専務理事、業務執行理事) 3名

非常勤理事 4名

非常勤監事 2名

### (2) 評議員 6名

### (3) 職員等

職員(男性8名、女性7名) 15名

嘱託 3名

傭員 2名

## 役員名簿

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	小 泉 昭 男	監 事	山 本 哲 郎
専 務 理 事	田 中 栄 作	監 事	設 楽 忠
業 務 執 行 理 事	栗 村 修		
理 事	越 後 谷 修		
理 事	大 柳 博 明		
理 事	野 澤 隆 寛		
理 事	山 崎 一		

## 評議員名簿

(五十音順)

氏 名	所 属
浅野 祥三	前 公益財団法人日本レクリエーション協会 理事
入谷 誠	一般財団法人全日本交通安全協会 専務理事
小澤 豊	東京都自転車商協同組合 理事長
幸田 徳之	一般財団法人日本交通安全教育普及協会 専務理事
土屋 真人	一般財団法人 日本サイクルスポーツセンター 常務理事
丸山 麻里子	消費生活アドバイザー